

学習塾と図書館を開いて

～“今”が一番大切、それを継続～

石巻市 武山明美さん 50代
2022年8月20日聞き書き
聞き手 千葉直美

家を一軒借りて、小学生から中学生・高校生のための学習塾、幼児から社会人向けの英会話教室やパソコン教室、さらに高校卒業資格を取れる通信制高校のサポート校をしています。また、午前中には、学校へ行けない子のための、フリースクールも開設しています。図書館も開設しています。石巻の子供たちの学力を上げたいし、通信制高校を始めたのは、何とかして高校卒業資格を取ってほしいからです。生徒たちが学校のテストであまり良い点数しかとれないとがっかりして落ち込んで悩むし、教え方が悪かったのだと教え方を勉強したりします。この塾をやめていく生徒もいるし、生徒とのコミュニケーションにも悩む時もあります。

家賃や光熱費の支払いも大変。行政には、大きな建物を街中にドンと作るより、私たちのような小さな施設を地域のあちこちに点在させて子供たちが自由に徒歩で行ける居場所をたくさん作ってほしい。

私が子どものころ、母は自宅で託児所をしていて、いつも子供たちがたくさん家にいました。それが嫌いだったのですが、今、自分も同じようなことをしていて不思議です。その母は80代後半でパソコンやそろばんを始めたんですよ。それを見ていると60代は若い方で、80代、90代でもなんでもできると思います。退職した人たちが、それまでの仕事や人生経験を活かせるお手伝いもしたい。インバウンドで石巻に来る海外の方のための観光ボランティアにも関心があります。英語ができるだけでは観光案内はできません。地域の歴史や文化についての深い知識が必要なので勉強しています。若いころ海外旅行の添乗員をしていたし、観光業には関心があります。

震災の時は、仕事で仙台にいたので直接石巻の津波は見えていないんです。自宅は大規模半壊。でも当日石巻にいなかったことが、“半被災者”というかなんというか、うしろめたさを覚えます。

ひらめきは、やってみないとわからない。だめなら手を引く。夫は、どうせ言ってもきかない、あきらめない、やるだろうと思っているので、私の現在やっていることを止めません。いつか老後は一人になる。その時やることを持っていたい。飲食店も開きたいんです。朝ごはん、昼ごはん、おやつ、夜ごはん、そして居酒屋を一軒でやるお店。日替わりシェフに店を貸したり、一人暮らしの人のためのサークルのような食堂みたいな場所のイメージもあ

ります。

震災の前からずっと自分の中に、やりたいことの根っこがあって、震災がそのタイミングになりました。震災後、半島部の人たちは船や漁具を流され、大きな借金を抱えてマイナスから立ち上がりました。それに比べたら「自分には失ったものはない。ゼロからのスタートが切れる。」その思いが膨らみ「今だ！」という時に良い物件に出会い、震災から2年後の2013年に塾を開業しました。今も必死で働いています。足を止めたら終わる。前しか向いていません。自分の定年は75歳と決めているんです。その時は負債も返し終わっているだろうし。

掴めない夢があるから、前へ進めるのかもしれませんがね。夢を手に入れた人の苦勞は、「その先、どうやって生きていこうか。」「次は何を目標に生きていこうか。」と一瞬、目の前が真っ白になってしまったり、また、夢と現実のギャップに苦しんだりすることもあるでしょう。「夢は実現した後の、継続のほうが難しい」と気づいたり。その経験は、私も苦しいくらいでした。だから、「継続すること」が「夢を実現すること」より難しいのでしょう。そのため、わたしは現実を継続させるためのエネルギーとして「次の夢」を抱き続けています。夢を追いかけるときのほうが、楽だし、楽しいので。

“今”が一番大切。それを継続するかどうかで未来が決まっていく気がします。

以上